20.7.28 （於て、富戸コミセン）

学童保育を考える

第二部　質疑応答

司会

今の田畑さんのお話しを伺って、もう少しここを聞きたい、あるいは他の学童を見て感じていることとか、そういうことも交流できたらいいかな、と思いますので、どなたからでも質問とか感想を出していただければいいと思います。

A さん

これまでも学童を作ろうという動きがあったのにできなかった。それが実現できた要因、原因はどんなことがあったのか。

田畑

何年か前に話が上がって、一回はできたけど、すぐに無くなっちゃったみたい。おそらく子供の人数が集まらなかったのと、定着しなかったというのが続かなかった原因だと思う。今回は細やかに準備もさせていただいて、その時の幼児教育課の課長さんは岸課長でした。今はかなりお偉い立場になっておられますが(笑)、かなり協力してくれたというのも大きいですが、やはり一緒に関わってくれた主要メンバーのお母さんたちが、ほんとに力いっぱい動いてくれて、各分野で会計のことが得意だったり、自営業の人がいたりとか、私に足りない所をフォローしてくれるお母さんたちが身近にいたということが、一番の要因だったと思います。市議会議員さんもかなり力を入れて関わってくれたので、私たち保護者だけが発信するのではなくて、市にも効力があったというか、伝わり方が違ったかなと思っています。

A さん

15 人はみんなママさん？

田畑

そうです。15 人の中で 5 主要メンバー5 人が、毎週土日に集まって、一から作り上げてきた、という感じですね。

司会

毎回集まった方のお子さんは最初の…

田畑

そうです、第一期生として。今もまだ残っている子がいます。第一期生が今 5 年生になっています。

司会

他にありませんか。

B さん

私、富戸の学童ができる前に、「学童が欲しいね」と言っていらした岡田先生と一緒にお話しをさせていただきました。自分自身も子育てのときには、子どもが学童にお世話になり、自分も学童の役員をしたこともあって、関心もあって、『富戸に学童ができるといいね』とお話しさせていただきました。お母さんたちが「学童が欲しいね」というなかで会長さんになりそうな方が「学童はちょっとむずかしい」ということで静まってしまった。その後、お母さんたちのなかで、学校の先生だったり、看護婦さんだったり、ほんとに子どもさんを学童に預けて、自分が働かなければ、という方々が何人もいたので、「絶対に実現させなければ」という思いが強く、今日に至ったのかなと感じています。今回気になったのは、学校が休校中の 3 ヶ月間、朝から夕方まで子どもさんをお預かりして、とても大変だったんじゃないかな、と思うんです。いつも働いてくださる方の他に、市の方から支援で入ってくださった方がいらっしゃったのかどうかをお聞きしたい。

田畑

市役所の方からは、幼稚園さんも休園になったので、そこで働いている支援員さんでしたら、幼稚園で働く時間だけだったら派遣できます、というご提案はいただいたんです。すまいるクラブは人数も少ないですし、個性も強い子もおり、短時間だけ関わってもらうにはなかなか信頼関係が築けず、ちょっと違った方向に行ってしまう子が何人かおりましたので、時間的にも幼稚園がやっている時間だけだと、一番欲しい時間帯に当てはまらなかったので、すまいるクラブはお願いせずに、いる支援員でなんとかつなぎました。他の学童さんはその支援員さんにお手伝いしていただいたところもあったようです。

B さん

大変でしたよね。

司会

あと如何ですか。

C さん

今来た時に、入り口の横に「売り家」という札がかかっていたんですが。

田畑

「売り家」？ フェンスですか。あれは違う敷地です。

C さん

そうなんですか。だったらよかった（笑）。どうなるんだろう、と思ったものですから。

D さん

もう 40 年も前ですが、自分の子が小学校にあがって、学区に学童保育がなかったんです。30 分も歩いて違う学区に登園することになった。自分で学童保育を作らなくてはいけないという思いもあったんですが、下にも子供がいて送り迎えもすべて一手にやっていたから、出来なかったんです。私の母を呼んで 30 分手をつないで新しい学童保育に行く練習をしてもらった。そんなふうにしたから、これだけ子どもたちに添った暖かい学童保育をやって、力のある人をより集めて作られたことに敬意を表したい、素晴らしいと思います。いろいろな条件はこの 40 年で変わってきたと思うけれど、日本は子どもが一人で留守番しても罰せられないけれど、他の国では 9 歳とか 11 歳で一人で留守番させれば親が法律に触れるんです。子どもの人権がまだまだ守られていない中で、みつとみ先生まで来て、そういう方まで参加を呼び掛けてやっているというのはすごいなと思います。

田畑

ありがとうございます。

E さん

教員をやっていたんですが、学童の必要性というのは教員の立場からもわかったんですけれど、立ち上げる時に一番大変だったのは何ですか。

田畑

一番大変だったことと言うよりは、学童をつくるというマニュアル自体が市になかったんです。他の学童さんは昔からある学童さんなので、「立ち上げのとき何をしたのか」と聞いても、細かいことまでは分からず、本当にすべて試行錯誤で進めていったというのが大変だった。経理の問題とか支援員を募集するというところも、素人には難しいことも多々あり、とても苦労しました。あとは子どもたちが集まるかという不安は大きかったです。立ち上げる会の子どもたちは加入しましたが、その後子どもが本当に増えていくのか、というところが大切で、ずぅーと 10 人に満たない学童だと、おそらく運営できていなかったと思う。小学校、保育園、幼稚園、全部にアンケートをとって「何年後には何人集まる」と細かく調査をし、教育長さんに「何年後にはこれだけ集まる予定だから、どうか富戸に」というお願いをしに行った。市役所に掛け合うノウハウも私には無縁の世界だったので、そこは市議会議員さんの力をお借りしたりしてやってきた。何が大変だったというより、すべてが

分からなかったので。だから、マニュアルがあればどれだけスムーズだったか、と思う。今回、池で学童開所に向けて活動しているため、富戸立ち上げのノウハウをお伝えしました。おそらく富戸を立ち上げるよりはスムースに動けていると思います。

C さん

私のお友達に学童を作った人たちが何人かいるんですが、私の年代ですから、とても皆さんご苦労なさった。あんなに大変なんだ、と思っていました。今でも大変なんだろうと思います。よく頑張っていらっしゃる。

E さん

マニュアルはある程度形にしたわけですか。

田畑

そうですね。すべてファイルに綴ってあるので、何ヶ月前にはこんな会をしたとか、こういう準備をしたとか、ということはすべてお伝えすることができました。

F さん

僕も小学校のとき学童に行きました。そのときはまだ市の事業でもなかった。うちの母や周りのお母さんたちがボランティアで始めた。それがたぶん伊東の学童の走りだと思う。それが徐々に広がって、僕が今の仕事(議員)について初めて市の事業になっているのを知った。市の支援・補助で、もう少しこういうのが欲しいと、今感じていることであれば。

田畑

今感じていることですと、委託金に関しても、利用人数によって金額が変わっているので、小規模だと一人につきマイナス幾ら、みたいな感じて下がってしまう。人数が少ないからお金が必要でないかと言われると、そこは違う。やはり、どんなに人数が少なくても資格者が二人いなくてはいけない。支援が必要な子のためにプラス一人置いているということで、今三人確保しないといけない。多い人数でも三人くらいで見れる、すごい少なくても三人置かなくてはいけない。小規模な学童にとっては人件費というのが、かなり厳しい問題になってくるのかな、と感じております。昔に比べると金額もだいぶアップしていますし、支援が必要な子のための加配用の委託金があったりとか、社保に入るための補助金もあったりするので、だいぶすまいるクラブは助かってはいるんですけど、もし今後小さい学童が出来ていく中で、そこは厳しくなっていくのではないかと思います。

あとは保護者会運営なので、「市としてはこうだけど、『すまいる』さんは『すまいるさん』の役員さんで決めてください」と。決定権がすべて保護者会・会長になってしまうのが厳しい現状もある。コロナの件でも、「市としてはこういう流れで行くけど、あとは学童さんで判断して」と、毎回振られちゃう。役員会でも、「市役所って、そんな対応なの」という声がかなり聞かれている。責任問題となってくると、コロナの様な事態になると、保護者だけの判断では厳しくなると感じております。

F さん

ガイドライン的なものがあれば保護者の決定権でもいいけど、「コロナの騒ぎだからそっちで決めて」となっちゃうと…

田畑

最終的に開けるか、閉めるかは各学童さんで、みたいな感じなので、今も。

D さん

大変ですよね、そうすると。「全部やってください」って。保育園にも認可があるのに、最低の条件は市で決めて行って、どんなところで働こうが、働く人を支援していくというのが第一ですよね。小さい所であろうが、大きい人数であろうが、働く人が保障される、となっていると思うんです。

自分の経験から、何もやってやれなかったので、子どもに負担をさせるわけです。朝から晩

まで集団の中に放り込み、家に帰っても 2 時間で寝かせる、という子どもを追い込んだ育て方をしてきたから、これはすごいことだと思います。

A さん

コロナの期間、援助とか補助はまったくなかった？

田畑

一応ありました。一日につき何万円みたいなのがあったんですけど、いつもだったら半日しか働かない支援員体制を、10 時間勤務にすべて変更して同じ人数でやってきたので、ちょっとマイナス。委託金も出る月が決まっているので、ちょうど次の委託金を待たなくてはいけないという時期で、年度末でお金もカツカツで、自分の給料をもしかして後回しにしないといけない、というぐらいのところまで、ギリギリだったんです。人数の多い学童さんは、たぶんゆとりを持った経営をされているんですけど、富戸レベルだとギリギリで予算を組んでいるので。あまりお金を残してはいけない、というのは役所からも言われているので、ゼロになるように予算を組んでいるんですね、繰越金が。だから、今回はちょっと焦りました。人件費が倍以上になってしまったので。

D さん

F さん、そういうのもガイドラインで市で作らなくてはいけないんじゃないですか。

F さん

作らなくてはいけないと思い、私も議会で質問したんですが、まだ、検証が行われていない、ということで。今回、国からも補助金がでていて、一人当たり 1 万 2 千円だったかな。ただ、今まで半日で良かったものが一日勤務になって、その 1 万 2 千円でまかなえるのかというと、計算上はマイナスなんじゃないか。僕は宇佐美で、宇佐美小学校の「わんぱく」さんに話を聞きに行くのですが、「ほんとにこれは人件費として扱っていいのか」というところから疑問だったらしいのです。国は超時間勤務になるから人件費として、といって市に丸投げ状態で出してきた。市もそのまま学童に横流ししているだけだった。通達内容が細かくなかったので、現場では混乱というか、「このお金はどういうふうに使っていいのか」分からなかった。人件費というのは運営費としての委託料の中に入っているので、運営費として渡されると、これを人件費に使っていいのか、物資を買う運営費にしていいのか、というのが現場任せになっていた。そこのガイドラインも作らなくてはいけないというのが、今回明るみにはなった。

D さん

進展はしてはいるんですね。

F さん

教育課長さんが女性の方に変わったので、現場を経験している人だと思うので、対応は変わってくると思います。

B さん

周りの方に学童の様子を、大池小とか旭小と関わりがあるので、周りの方にお話ししたりするんです。そうすると、東京都からこちらに移住された方なんかは、「自分たちは学童を一か月５００円で見てもらっていたよ」という話をするんです。指導員さんは市・町の職員。働く方も安定しているし、保護者の負担も少なくやってきたから、「伊東も改善していかなくてはダメだよね」とそんな話をよく聞いていた。また、これからみんなでいろいろ要望を出しながら、改めていくことかなぁ、なんて思ったりしている。

D さん

伊東で万単位で払うなら、子どもを置いた方がよいと思いますよね。今ジェンダーフリーと盛んに言われているけど、やはり小さい子どもは女がチョコッとみていればいい、という意識から逃れられない。田畑さんがここに住まわれる前、伊東のこのエリアに住んでいる方が、子

育てをしながら子どもをどういう風にしていたのか。パートなら子どもを連れていくか、子どもを健やかに育てるということはほとんどなかったのではないか。空いている人が見る、女が片手間に見る、という形で学校に上がるまで来たんではないか。子育ては女の片手間というふうに。立ち上げる時どうだったですか、子どもはどんな風に見てもらっていたですか。

田畑

富戸はけっこうお祖父ちゃん、お祖母ちゃんが近くにいるご家庭が多くて、本当に困っている人って、少なかったようです。あとはコミセンさんが空いているので、お母さんが帰ってくるまでコミセンで遊ぶ、幼稚園の園庭で遊ぶっていう子どもたちが戯れていた、と言うのは聞いていました。今まで預けていなかったので、高額なお金を払って学童に入れる、というのもぴんと来ないご家庭が多かったですね。

D さん

学童が作られてそういう風に思われているお母さんは、良い学童にしようという願いが強くなってきたんではないでしょうか。

田畑

そうですね。

A さん

私は富戸の生まれ、育ちですが、放っておかれました(笑)。お祖父ちゃん、お祖母ちゃんがいたので。あと、幼稚園と保育園は無償化になりましたよね。親の負担ということから考えると、いろんな条件をクリアしたうえで無償化の動きというのもありうると思うのですが、まだ政治的な課題になっていないのですかね。

司会

学童保育の設置者が公立で、働く人も職員だ、という認識で最初のスタートからやっているところと、学童がなくて働く人が増えてきて「何とかしよう」というのでは、違いがある。東京の場合は保育所のときにはお金がかかったけど、学校へ行くようになって、「学童保育だからおやつ代の 500 円で、ただみたいなもので有難い」と。東京の場合は、学童保育は今でもほとんど公立。設置者も市とか町とか区だし、職員も正規の職員。それが当たり前で来ていた。でも、伊東の場合はその考え方がなかったんだよね。それで、必要なところでいくつか始めて、という感じで。富戸とか池とか、遅れていたわけ。ここにきてそういう機運が盛り上がった。

F さん

ご近所にお祖父ちゃん、お祖母ちゃんがいて、という環境があったと思うんです。宇佐美もそうだったと思うんですけど、移住者が結婚して移り住んできたという人も多かった。そのなかで、共働きだと子どもの面倒を夕方見られないご家庭が増えてくると、そういう要望というか、「どうにかしなきゃ」と。公的な部分ではそういうことを感じないけれど、私的に市民が動いてきたというのが歴史的にあるのかな、と思う。保育園なんかもそうですね。ゼロ歳児保育というのが無くて、共働きでないと家計を支えられないから、育休を取ったとしてもその先が面倒を見切れないとなると、保育園に預けたいけれど、「三歳からしか預けられません」というのがずぅーと続いてきた。それで、無認可からゼロ歳児保育が始まった。伊東は、根本的に子どもの面倒は親が見る、祖父ちゃん、祖母ちゃんが見るというのが、昔から根付いていた。池が一番遅れたのはそれが原因ではないのかな。今、池が学童を必要としているというのは、池の環境を若い人たちが見直してきて移り住んでいる、という情報が入ってきた。そうすると、自分たちの実家が近くにないから、どっかに預けないといけない。そういう原因があって、立ち上げたいとなったと思う。

A さん

池も保護者会が運営主体ですか。(そうです)

司会

だから経理というようなものも、保護者がほとんどやっていると思う。富戸の学童は違って、田畑さんがすべてやっているそうです。そういう点でも自分たちが個人的にやっている、学童そのものがそういう存在であるのではないかなと思う。富戸の学童の場合、子どもたちに接するやり方とか、教育ではないけれど、保育なんだけど、一人一人の子どもの人格を尊重してどう発達させ成長させていくか、をものすごく大事にしている。学校との連携もすごい。私は、それが富戸小にとってもプラスになっているのではないかと思う、学童のやり方が。一人一人を丁寧に見て、勉強がちょっと苦手、この分野が遅れている、とか。その中で一人一人をどう大事にしていくか。学童の方で、この子はちょっと勉強が遅れてこのままではかわいそうだな、とか、何とかしてあげたいな、ということが、逆に小学校の先生に伝わって、先生の対応が変わってきている。そういうこともあって、内容が－子供の成長という点で－素晴らしい学童のやり方ではないかな。

E さん

小学校との関わりを教えていただけますか。

田畑

小学校とは一学期に一回ずつ面談をさせていただいているのですが、何かあったらすぐに連絡をさせていただくようにしています。教頭先生が学童の担当をしていますが、教頭先生自身も学童に立ち寄ってくれ、話しやすい関係は今築けています。保護者には言えないけども、例えば、「死にたい」とか、「ストレスがありすぎて困っちゃう」とか言ったときにはそのような細かい内容も学校の方にお知らせするようにしています。下校後児童が来ないという時も「誰々さんが来ていないけれど、学校を出ていますか」など、些細なことまでやり取りをする関係を築いています。

F さん

何でも相談できる、と。

田畑

そうですね。勉強のことも、性格のことも、面談のときには個別に相談させていただいています。

B さん

お会いするのは担任の先生？

田畑

気になる子のときは担任の先生に入ってもらう。教頭先生が長く勤められていると、児童が少ないので、全部の児童のことをわかってくれているので、教頭先生とやることもありますし、今回教頭先生が新しく変わりましたので、担任の先生と教頭先生とで、つい先日面談をしてきました。

D さん

少人数で手作りでいいですね。あともう少し制度的保障があればね。

G さん

三つほど質問があります。一つはコロナで休校になったときに、富戸の学童は開いていると聞いて、「それは大変だな」と思ったんです。ここにも、「スタッフの方が一日 10 時間もやっている。ストレスも限界に達する状況だった」とあります。その状況を話していただきたいのと、どうやって解決していったのか、ということ。もう一つ、学童は基本的に教えるところではないとありましたが、中身を見ると宿題は終わるまでやる、ということになると、聞かれたら「こうするのよ」ということがあるのではないかと思うのですが、その辺はどうされているのか。それから、重岡さんから「八幡野の学童を夏休み手伝ってくれ」と言われて、とりあえず一緒に遊ぼうかと思って行ったんですが、あそこは人数も多いし、ワーワーギャーギャーわめいて、

2 時間もいたら疲れてしまった(笑)。富戸の場合はもう少し落ち着いているでしょうが、われわれの世代で何かお手伝いできることがありますか。

田畑

ありがとうございます。コロナのときの対応ですが、10 時間開けている。支援員もシフトの体制がまちまちなので、常勤者は基本 8 時間、パートさんは 4 時間しか働けないとか、この曜日しか働けないとか、バイトさんだと何曜日しか来られないという状況です。パートさんたちは掛け持ち先もあったりするので、いつも通りのシフトとし、致し方なく常勤勤務者が 10 時間滞在することが増えてしまいました。資格者が二人いないといけないという規定もあり、資格者が開所から閉所までいなければいけない状況でした。勤務してくれている常勤者が 10 時間缶詰めになってしまうのは、企業としてもとてもブラックなことで、それを避けるために結局自分が 10 時間居るという、それが改善策としかなりませんでした。休校中かなりの勤務時間となり、会計士さんからも注意をうけたほどなんですが、どうにもならなかったです。お母さんたちが働いているので、「もう閉めますよ」とか、「何時までに変えますよ」というのもなかなか言えなくて…。改善策というよりは、自分が頑張るしかなかった。私も子どもがいるので子どもたちにはかなり負担をかけたな、と思っています。

宿題に関してですが、終わらない子は一時間以上かかったり、ずぅーと一人勉強の部屋に残ったりというのもあります。どうしてもできない時は、保護者や学校とも相談をしています。お迎えまで一分も遊べず勉強させるのか、というとそれは違うので、例えば一時間で区切ろうとか、わからないところは「わかりません」と書こうとか、「空白にしておこう」でも最後までやり切ったと先生にわかるように付箋はつけておこうとか、「やったんだけどわかりませんでした」とか。漢字のノートもグチャグチャになって落ち込むこともあるので、そうすると付箋をつけて、「こういう状態でしたが頑張ってやっていました」みたいなのをつける。1.2.3 年生ぐらいだったら多少は教えることもあります。ほんとうにわからない子には、間違えた教え方をし、混乱させてもかわいそうなので、対応はご家族と先生とお話をして決めています。4.5 年生になると、私も勉強が得意ではありませんので、「ゴメン、わかんないよ」と正直に伝え、大学生のアルバイトの子がいる時は、その子たちに教えてもらうようにしています。私の時代と教わり方も変わってきているので、違うことを言うと、私のせいで間違えていたよ、みたいなことをチョイチョイ言われることもあります。

お手伝いに関しては、現在支援員で 70 代の方がいます。男性の方ですごく頑張ってくれている。畑作業もをやってくれ、子どもたちと一緒に今夏野菜を育てている。そういうところで力を注いでくれたり、昭和の遊び、将棋だったりけん玉だったり、私たちだと一瞬で将棋で負けたりするんですけど(笑)、その方は強いので長くいい対戦ができたりというところで、すごく力をもらっています。

D さん

資格のある方って、どういう資格があるんですか。

田畑

放課後児童クラブの支援員の認定資格というのがありまして、2,000 時間の経験もしくは保育士とか教諭の免許を持っている人だと講習を受けに行ける。それとは別に補助員資格というのがあって、それは誰でも行ける。その認定資格を持っている人が基本は二人必要、そのうち一人は補助員資格でもよい、と決められています。今、認定資格はコロナで定員が半分くらいになってしまって、伊東から二人しか行けな

い状況になっている。受講資格がある人は見込み者というカウントになって、令和 4 年度まではその人たちも資格者としてカウントできると聞いています。それまでに行けなかったらどうなってしまうんだろう、という不安はあります。入ったからすぐに認定資格を取りに行けるわけではないので、そこも難しいですね。

F さん

前は民家で、ほんと狭い所で頑張っていらっしゃったが、今富戸幼稚園の跡地を利用して、だいぶ環境は変わったと思うのですが、広くなって逆にデメリットというか、こういうところが大変だ、というのがありますか。

田畑

支援、子どもの導線が広がったことですね。今までは 12 畳と 6 畳の保育室の間に立っていれば一人で両方が見れていたという状況から、今、お部屋も二つ使っていて園庭も広くなって、というと、やはり一人ではすべてを見きれなくなる。二人体制でも、死角ができるということもあるので、やはり三人は必要かなと思いますね。人数が少ない割に広すぎてしまうデメリットはあります。何十人もいて、支援員が 5 人くらいいるよ、という学童さんだったら全然いいと思うのですが。でも、伸び伸びできていい所の方が多いですね。

司会

少人数の良さというか、そういうのがものすごく発揮されていますよね。子どもと大人が 1 対 1 でなにかする。その子は支援員さんを独り占めして話をしたり遊んでもらったりという時間もうんと多いのよね。それと、集団で一緒に外でなんかやる。なかなかみんなと一緒にできなかった子が一緒に外でやれるようになった子がいるよね。そういうところのすばらしさ。このコロナで 40 人学級を分割して授業を受けたりして、少人数学級の良さというのを上手に、学校も学童も連携してできているのではないか、そういうことを今改めて強く思っています。

A さん

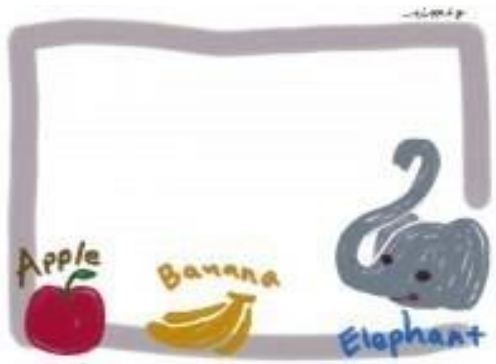
保護者会が運営主体で自主的に中身を決められるというメリットはあるけど、コロナの一斉休校みたいに上から降りかかってきたことについては、それぞれに任せるというのはあまりに無責任ですよね、10 時間も負担を強いる。育成会は横のつながりで対応を要求するとか、例えば三密回避をどうするのか、とかそういう話し合いはなかったのですか。

田畑

あまり育成会というのは生かされていなくて、休校中も二度ほど各学童の支援員の代表が集まって、市役所の担当の方・課長とお話をするという会議はあったので、そこで、こういう時はこうしよう、こういうところで困っています、というのはお伝えしていました。

司会

父母連の組織が機能していない、全部が入っているわけではないということが、行政との関わりの点では大きいのではないかな。

学童保育のことについてはこれぐらいで良いですか。

(以上)